

福岡県合同輸血療法委員会の平成 27 年度活動は「中小医療施設における輸血医療の実態把握と支援に向けた福岡県の取り組み」としました。

まず日本輸血・細胞治療学会の認定医師、認定輸血検査技師、学会認定・輸血看護師から構成される「タスクフォース」グループを合同輸血療法委員会内に設立しました。

タスクフォースが中心となり中小規模医療施設における輸血医療の実態把握のため、415 施設を対象にアンケートを実施しました。対象施設は平成 26 年度の福岡県赤十字血液センター供給単位数の 5.4%を占めます。

190 施設から回答を得ました（回収率 45.8%）が、ほとんどは 200 床未満の施設でした。多くの施設が厚生労働省の「輸血療法の実施に関する指針」「血液製剤の使用指針」を参考に適正輸血に取り組んでいると回答しましたが、輸血検査や輸血用血液製剤の供給等に支援の余地があることが明らかとなりました。また輸血についての外部サポートとでは約半数の施設から研修会の要望が挙がりました。今後中小規模医療施設において実際に輸血医療を担っている看護師を対象として、研修会を開催する予定です。

また学会認定・臨床輸血看護師、学会認定・自己血輸血看護師、学会認定・アフターシスナースの情報交換の場として「福岡県学会認定看護師連絡会」というネットワークを立ち上げました。今後開催予定である県内の看護師対象の輸血研修会においては、学会認定看護師連絡会のメンバーが講師となりタスクフォースと協力して、県内 4 地区で共通カリキュラムにて開催することを予定しています。